

# パモジャ



2010年2月号

## INDEX

- 1) 今月の1枚: 「中等学校国家試験結果」
- 2) JICA in Tanzania : 「タンザニアでネリカ登録実現」
- 3) クリコニ?: 1月のできごと
- 4) JichoのJicho: 「カリアコーの自動車修理屋」

### (1) 今月の一枚: 「中等学校国家試験結果」



1月下旬、2009年度 Form II 国家試験の結果が届きました。私が担当していた物理の結果は平均点が68点と、2008年度よりも21点上がりました。とても嬉しかったのと同時に、なんで? という感想を抱きました。というのも、昨年度は過去問題の貸出以外に試験対策は特に行っていなかったからです。その代わりに、生徒参加型の授業を心がけ、下位層の生徒に焦点を合わせた授業を行い、全員が理解するまで説明しました。また実験を数多く行い、物理の面白さを伝える活動を重視しました。それが結果として下位層の生徒のモチベーション向上に繋がったのだと思います。

ある生徒は、いつも40点以下の成績しか納めていませんでした。ところが本番では70点を取り、結果を見るなりいきなり抱きついてきて「Asante Mwalimu(先生、ありがとう!)」と言ってくれました。自分の力で、最高の結果を出した生徒が沢山いました。これが彼らの自信となり、今後良い影響を与えてくれればいいなと思います。 (理数科教師 池田 友亮)

### (2) JICA in Tanzania: 「タンザニアでネリカ登録実現」 関谷 信人 専門家

New Rice for Africa がいよいよタンザニアでの普及を開始します! 普及支援にかかわっている専門家より、タンザニアにおけるNERICAを紹介してもらいます。

年明け早々に嬉しいニュースが飛び込んできました。2010年1月6日発行のMajira誌およびHabari Leo誌は、「2009年12月23日、国家種子委員会がイネの新品種を公式に認可した」とする農業省の報道発表を掲載しました。TANRICEプロジェクト(灌漑農業技術普及支援体制強化計画)のスタッフが、あるいはタンザニアの稲作農家が、と表現した方が良いかも知れませんが、時には苛立ちを抑えられないほどに恋い焦がれてきた新しいイネ品種の導入が、遂にタンザニア政府によって認可されたのです。このイネ品種こそが、アフリカ農業開発の現場で熱い注目を浴びるNERICAなのです。

NERICAとは、New Rice for Africaの頭文字を合わせた造語です。西アフリカイネ開発協会(WARDA<sup>1</sup>)が育成し1996年に公開したイネ品種群の総称です。2000年に西アフリカ各国でNERICA 1~NERICA 7(番号が品種名を示す)の導入試験が始まり、それと平行して品種育成も継続された結果、2005年にはNERICA 8~NERICA 18、2007年にはNERICA 19~NERICA 40が公開されています。NERICA



タンザニア本土とザンジバルで認可されたNERICA 1の稲穂

<sup>1</sup> WARDA: West Africa Rice Development Association、現 Africa Rice Center



1~NERICA 40 はいずれも陸稲品種ですが、2007年には水稲品種NERICA-L 1~NERICA-L 60(L:Lowland(水田)の頭文字)も公開されています<sup>2</sup>。

NERICA はアジア起源の植物種 *Oryza sativa* L.(アジアイネ)と西アフリカ起源の植物種 *Oryza glaberrima* Steud.(アフリカイネ)との種間交雑で育成されました。それ以前は、遺伝的にすでに別系統の両種を交配し次世代を得ることはほぼ不可能と考えられていましたが、WARDA の Monty Jones 氏が試行錯誤の後に数粒の種籾を作り出し、戻し交配法や薬培養法などの技術を駆使して短期間に実用品種の育成に成功しました。遺伝的障壁を乗り越え、全く新しい品種の育成に成功したという研究者の歓喜が New Rice for Africa という名前に表れています。



タンザニア本土とザンジバルで認可された NERICA 1 の植物体

NERICAは播種後90~100日前後で成熟するため、アフリカ各地でこれまでに栽培されてきた多くの品種(在来品種)と比較して30~50日も早く収穫することができます。また、成熟の早い品種は収穫量が落ちる傾向にありますが、NERICAは比較的高い生産性を発揮します。タンザニアの多くの地域では、雨期が2~4ヶ月(60~120日)しか続きません。そうした地域で在来品種を栽培すると、生育の終盤で雨期が終了し、水欠乏に陥る事態が頻発します。生育終盤の水欠乏は、穂の中に身が詰まらない空籾を誘発し、収穫量が激減の原因になります。NERICAは、そうした短い雨期でも成熟するため元々の高い生産性を発揮して、在来品種を大きく上回る収穫量を達成する可能性があるのです。

TANRICEは、これまで、各地の農業試験場で実施されていたNERICA優良品種選定試験を支援してきましたが、この度の認可を受け、早速、普及に向けた活動も開始しました。何はともあれ、種が無ければ普及は始まりませんので、

TANRICE傘下の農業研修所に依頼し、まずは種子増産を行っています。広大なタンザニアで迅速な普及活動を実施するため、県の農業畜産開発担当官および普及員に現場

作業を担当してもらうことを計画しています。本年中頃には、彼ら県職員を各地の農業研修所に招集し、NERICA普及に関する技術指導を行います。農業研修所の作物教官がその技術指導を担当するため、作物教官の技能強化とNERICA情報の共有を目的とした研修を本年2月中旬に実施する予定です。

計画中の活動が順調に実施されれば、2011年の雨期から一般農家によるNERICA栽培が始まります。

また、ザンジバルでも2009年11月にNERICAが公式に認可されました。現在、タンライスの支援で種子が増産されており、本年3月から一般農家による栽培が始まります。5年後、10年後にはタンザ

ニア全土でNERICAの栽培風景を目にすることができるかも知れません。

### (3)く・り・こ・に? 1月のできごと

【青年海外協力隊】  
1月19~20日:  
自動車部会  
定例会開催

新隊員も参加して、  
お互いの活動報告や



問題点を話し合いました。また、新部長20-4大下隊員の元、昨年8月に行った大型ワークショップを引き続き継続する事となりました。次回は形式を変えて、現地教員と共に深く関わり、お互いの能力向上を築くワークショップを開催したいと考えています。今回の定例会でも、他にも様々なアイデアが飛び交いました。今後もアイデアを形にし、自動車部会でタンザニアの加速する車社会に、少しでも知識や技術面が追いつく環境作りの支援をしていきたいと考えています。

(19-4 的場 紀美也隊員)

<sup>2</sup> 陸稲:畑、水田で生育可能、水稲:畑で生育困難



**〔州保健行政システム強化プロジェクト (TC-RRHM)〕 1月:2010年 RHMT カレンダー完成!**

本カレンダーは、保健セクターおよび関係省庁などに州保健局(RHMT)の存在をアピールすることを目的に作成されました。カレンダーには21州の州保健局メンバーの写真とともに各州のモットーがスワヒリ語と英語で載せられています。既にワーキンググループ、ワークショップなどで配布を開始しています。3枚つづりの壁掛けタイプです。少し余部がありますので、(タンザニア国内で)ご興味のある方は、池田 ([chihoikeda1025@hotmail.com](mailto:chihoikeda1025@hotmail.com)) までご連絡ください。(業務調整池田)



**〔教育行政管理能力強化研修 (フェーズ2)〕 1月21日:教育行政能力強化研修 開講式**

バガモヨにある ADEM(教育運営開発機構)にて、県の教育行政官を対象にした本研修の開講式が行われ、JICA から勝田所長、西村所員が参加しました。この研修は、地方分権化の進む中、県レベルで質の高い初中等教育の計画策定がなされることを目的として2006年度に開始され、2008年度までの3年間で110県、272名の県教育担当官(DAO)、統計ロジスティクスオフィサー(SLO)に対する研修を実施しました。

今年からフェーズ2に入り、今後3年間で全県の DAO と SLO に対する研修を実施する予定です。今年も各県から集まった85名の参加者が、約1ヶ月間の研修を受講中です。



**〔アフリカ人造り拠点 (AICAD) プロジェクト (フェーズ3)〕 1月25日:第1回国内貿易促進研修スタート**

本研修は、約3週間の日程でキバハにて実施中です。これは AICAD タンザニアが AICAD 本部(ケニア)にて地域研修を受けたタンザニア人トレーナーと共に計画、またトレーナーの多くが所属する SIDO (Small Industry Development Organization)と連携し同プログラムの実施を行っています。研修員はダルエスサラーム及びバガモヨから木工細工、手工芸、織物、ペインティング等に従事する約30名が選抜され受講しています。

2月11日の終了式に行われる成果品の展示で、研修の成果が生かされているのを見るのが楽しみです。(村上 雅彦専門家)



**(4)Jicho の Jicho: 長谷川次長  
「キャリアコーの自動車修理屋」**

現在使用中の自家用車は、11年落ち、走行距離11万キロを越える車で、タンザニアに持ち込んでから約1年半の間です。すでに2万キロ以上を走行し、車輪の裏あたりからしょつちゅう異音がする状況です。この1年半の間、2ヶ月と開けずにトラブルが起こる状況で、修理ばかりしています。

いままでは、平日にドライバーに修理屋に行ってもらっていましたが、どんなところでどのような修理をしているのか関心があった(心配だった)こともあり、自分も修理屋に同行して、どんなところでどのように修理するのかを観察することにしました。

まずはどこに修理を頼むかが問題ですが、ドライバーは「自分のなじみの修理屋があるのでそこに頼んだら良い。前任者もそうしていた。」と言うので、彼に任せることにしました。

ある土曜日の朝、ハンドルを回したときに出る異音を直すために、ドライバーの知り合いと言うキャリアコーのはずれにある修理屋に行きました。ガレージらしきところに行くのかと思ったら、ドライバーが車を止めたのは、ソーダとかスナックとかを売っているキオスクの前。よく見ると、隣にもボンネットを上げた車が置いてあり、メカニックらしきお兄ちゃんが作業をしています。ドライバーに「ここでよいのか？」と聞くと、「修理はここでやる」ということでした。電話をかけて呼び出すと、体格のよいつなぎを着たおじさんが路地から出てきました。若い見習いらしきお兄ちゃん2人とおじさんの子ども(?)の4人でおもむろに作業が始まりました。

どこからか、油圧ジャッキとレンチ数本、ドライバー1本、そして、大きな鉄のハンマー(工具はこれだけ。レンチの何本かは半分破損)が現れ、ジャッキで車を持ち上げたかと思うと、またどこからかエンジブロックを持ち出し、その上に板を数枚重ねて車を支えて前輪2本を持ち上げ、タイヤをはずす作業を開始しました。(車がちょっとバランスを崩すと倒れそう。でも、車輪止めの石は知らぬ間に置いてあった。)  
親方だけはつなぎを着ていますが、他の若者はTシャツ、短パン、全員サンダルに当然手袋はなし。私は社会人1年生のころ、半年ほど自動車工場で働いたことがあります。作

**「リレーエッセイ  
～Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania～」**

(20-1次隊 森 英子さん)

**ザンジバル女子サッカーチームのメンバー ナスリア。  
陸上でケニアの大会に行ったこともあるアスリート。**

**多少強弱にはあるけれども、**

**ザンジバルの文化を教えてください。**

**ラマダン中は、彼女がドイツ遠征でいないにもかかわらず  
彼女の家で毎晩のようにご飯を食べさせてもらいました。**



**次回は、バナナ販売に力を注ぐ  
モロコロ松木さんです!**

業着に手袋、帽子は不可欠、工程によっては安全靴が必須でした。それと比べると何の安全対策もなく、路上修理屋といってもこれで怪我をしないのか?と心配になりましたが、何事もなく作業を進めており感心してしまいました。

しかし、ボルトを緩めるために巨大なハンマーでガンガン叩きまくったとき、ブレーキ部品を路上において埃だらけにしたときには、「修理屋に壊される。もうやめてくれ!」と叫びそうになりましたが、ぐっとこらえて5時間後、周りで昼ごはんを食べ始めた時分になって、全作業が終了しました。いくつかの足回りの部品を交換したのですが、いやはや適切な修理であつたらしく、異音も消え問題はすっかり解決しました。

はらはらしたものの問題解消したので大満足となるはずですが、なぜだかちょっと割り切れない気持ちを残しつつ、路上修理屋を後にしました。きちんと工具を揃えたり、安全対策をしたり、部品等をていねいに扱いだしたりすると、結果としてコストアップしてしまうのかと複雑な思いも感じました。し



